

座長 土師一夫 (大阪市立総合医療センター)

13. 異なる転帰をたどった左室内血栓を伴う心筋梗塞の2症例  
(聖隷浜松病院) 遠田賢治・岡田尚之・鈴木和仁・  
小金井博士・小金井佐知子・岡 俊明
14. 冠動脈内ステント留置術の後療法としてのチクロピジンとワーファリンの比較  
(仙台循環器病センター) 高本 知・谷崎剛平・谷野俊輔・内田達郎・  
広沢弘七郎・岩出和徳・遠田賢治・田中美佳
15. 血管内超音波イメージング PTCA カテーテルを用いた冠形成術  
(大阪市立総合医療センター) 大塚雅人・河原井浩孝・長嶋道貴・周藤弥生・  
成子隆彦・伊藤 彰・東條 修・土師一夫
16. 急性大動脈解離のリハビリテーションプログラム  
(済生会熊本病院) 本田 喬・西上和宏・庄野弘幸・  
八木勝宏・小林 弘
17. 糖尿病, 難聴, 進行性刺激伝導障害, 肥大型心筋症の病像を呈したミトコンドリア心筋症  
(東女医大心研内科) 落合 出
- 特別講演 臨床の評価と科学  
(榊原記念病院) 細田瑛一教授

### 高齢者 (65 歳以上) 外来患者の特徴

(至誠会第二病院循環器科)

山住令子・澤井利恵・井上征治

近年, 高齢化社会が進むなかで, 高齢者の入院患者が増加するとともに, 外来患者においても高齢者の占める割合はますます増加している. 当科における3月の外来患者1,600名の内, 80歳以上の高齢者は213名であり, 13%を占めている. 今回, その中でもとくに85歳から最高齢の98歳までの超高齢者90名 (男32名, 女58名) について, 共通する特徴を明らかにするために基礎疾患, 合併症を始めとする医学的要因から介護にあたる家族やその経済的要因も含めて検討を行ったのでその一部を報告する.

### 内科的治療が奏効した置換弁性心内膜炎 (PVE) の経食道エコー所見

(立正佼成会附属佼成病院循環器内科)

渡邊和江・癸生川恵一・川岸直子・

網代洋一・真中真美・中村憲司

症例は54歳男性. 15歳時リウマチ熱に罹患. 1989年にARを指摘される. 1997年10月, 心不全となり入院. 心臓カテーテル検査を施行し, ARIII度, LVEDVI 186ml/mm<sup>2</sup>であり, 1998年8月25日AVRを施行した. 9月10日より38.5度の発熱, 9月16日, 腰背部痛が出現しCTを施行したところ両側腎梗塞の所見であった. 原因検索のため経食道エコー (TEE) を施行し, 人工弁から左室側に突出する有茎性, 可動性の疣贅を認め, 動脈血培養から表皮ブドウ球菌を検出, PVEと診断した. 抗生剤を投与し反応は良好であり,

投与14日目のエコーにて疣贅はfibrin strands様の線状構造となり, 1カ月後には人工弁に付着する塊状エコーへと退縮した. 本症例はPVEの診断および治療の効果判定にTEEが有効であり, 疣贅の退縮する経時的変化を観察し得たため報告する.

### 冠動脈3枝病変例に対する経カテーテル治療の適応を考える—長期予後から医療経済まで—

(榊原記念病院循環器内科)

浅野竜太・住吉徹哉・桃原哲也・

梅村 純・松尾 高・栗原朋宏・

真中哲之・細田瑛一

冠動脈ステントの導入により経カテーテル治療 (PTCA) の初期成績は向上し, これまでCABGの適応と考えられた3枝病変例の中にもPTCAで十分な病変拡張がなされ, 良好な経過をたどる例を経験することがある. 重要な点は治療可能例のすべてにPTCAを選択するのではなくPTCAが初期成績のみならず長期予後やコストの面からみても有用と予想される症例を選別し, これを適用することである. これまでわれわれはステント時代に入って以後の3枝病変例に対するCABGとPTCAの長期予後やQOLの比較, 完全血行再建をめざした場合に要する医療費の違いなどについて検討してきた. これらの成績をもとに現時点でわれわれが3枝病変であってもPTCAの良い適応であると考えている症例の条件について述べる.

心筋梗塞の急性期に合併した完全房室ブロックを伴った心不全に対する一時的体外式VDDペーシングの使用経験